

# かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

Vol. **81**

2020 WINTER

特集 世界の海上保安機関との連携協力

## 第2回世界海上保安機関 長官級会合開催



2nd Coast Guard Global Summit  
20-21 November 2019 Tokyo, Japan



**海上保安庁**  
JAPAN COAST GUARD

# かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **81**  
2020 WINTER

## PHOTO GRAVURE

- 1 海の事件・事故は118番へ
- 2 台風第19号をはじめとする大雨被害への対応
- 2 「うみがめマリンの大冒険」がリニューアル！
- 3 大学卒業者を対象とした「海上保安官採用試験」を新設
- 3 海上保安庁音楽隊第26回定期演奏会を開催

## [特集]

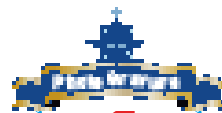
- 4 **世界の海上保安機関との  
連携・協力**

## 12 NEWS FLASH

裏表紙

## INFORMATION

第20回未来に残そう青い海・  
海上保安庁図画コンクール受賞作品決定



# 1 海の事件・事故は118番へ

2020年海上保安庁118番イメージモデルに篠田麻里子さんが就任しました。

海上保安庁緊急通報用電話番号「118番」は、海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年5月から導入されたものです。

また、平成22年度から毎年1月18日を「118番の日」とし、「118番」の重要性をより一層、多くの方々に理解してもらうため、全国で周知活動を行ってきました。

118番通報が導入されてから20年、「118番の日」は今年で10回目の節目を迎えますが、通報の多くが間違い電話等であり、未だ十分に浸透していない状況です。海上保安庁では、国民の皆様への更なる浸透を目指し、引き続き全国各地で周知活動を行ってまいります。



## 撮影のひとコマ



11月に都内スタジオにおいてポスターの撮影が行われました。

撮影した写真はすぐにパソコンに転送され、広報室員も一緒にチェックしました。



118番通報が導入されてから今年で20年!



118番の日は今年で10回目!

## NET118

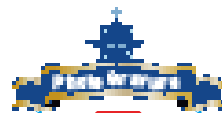
### 広がる安全・安心!「NET118」運用開始!

聴覚や発話に障がいを持つ方を対象に、スマートフォンなどを使用した入力操作により、海上保安庁への緊急時の通報が可能となる「NET118」というサービスの運用を令和元年11月1日から開始しました。

「NET118」は、聴覚に障がいを持つ方が乗船しているレジャーボートが転覆する海難が発生し、当庁が覚知するまでに相当の時間を要したという事案があったことを契機として、庁内において聴覚や発話に障がいを持つ方からの通報のあり方について検討を実施し、導入に至ったものです。

海上保安庁では、全ての国民の皆様が安全に安心して海で過ごせるように、引き続き、海難救助体制等の強化に努めてまいります。





## 2

# 台風第19号をはじめとする 大雨被害への対応



長野市千曲川周辺における吊上げ救助



流出油の回収を行う巡視船「ひりゅう」乗組員等



福島県相馬港における給水支援



福島海上保安部における入浴支援

令和元年は台風・大雨による災害が多く発生し、船舶海難への対応、巡視船艇・航空機による被害状況調査、孤立者救助、流出油防除、船舶交通の安全確保のための情報提供等を実施しました。

特に、広範囲で大きな被害をもたらされた令和元年10月の台風第19号への対応にあつては、河川氾濫により多数の孤立者が発生した宮城県丸森町、長野

県長野市千曲川周辺において、機動救難士により、計30人を救助したほか、断水被害に見舞われた岩手県釜石市や福島県相馬市等では、給水支援（延べ29.6トン）や入浴支援（延べ443名）といった支援活動も行いました。

今後とも、様々な自然災害に対し、当庁の機動力を生かして積極的に対応していきます。



## 3

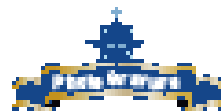
# 「うみがめマリンの大冒険」が リニューアル!



海上保安官が作成した環境紙芝居「うみがめマリンの大冒険」が、近年の海洋プラスチックごみ問題への世界的な関心の高まりを受け、マイクロプラスチックが生態系に与える影響について分かりやすく描写した一幕を追加するなど、公益財団法人日本財団の協力を得てリニューアルされました。

この紙芝居を活用して、身近なごみが海洋汚染に結びつく現状について考える機会を提供することにより、海洋環境保全思想の普及を図るとともに、海上保安業務への理解の促進を図ります。





# 4

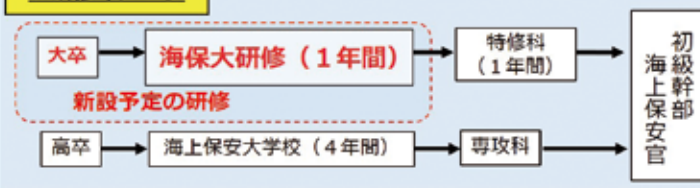
## 大学卒業者を対象とした「海上保安官採用試験」を新設



### 採用後の研修について

- 採用後、海上保安大学校（全寮制）において2年間の研修を実施
- 研修1年目は大卒者を対象とした初任者研修（乗船実習含む）
- 研修2年目は部内の幹部登用課程である特修科に編入

### ◎研修イメージ

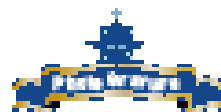
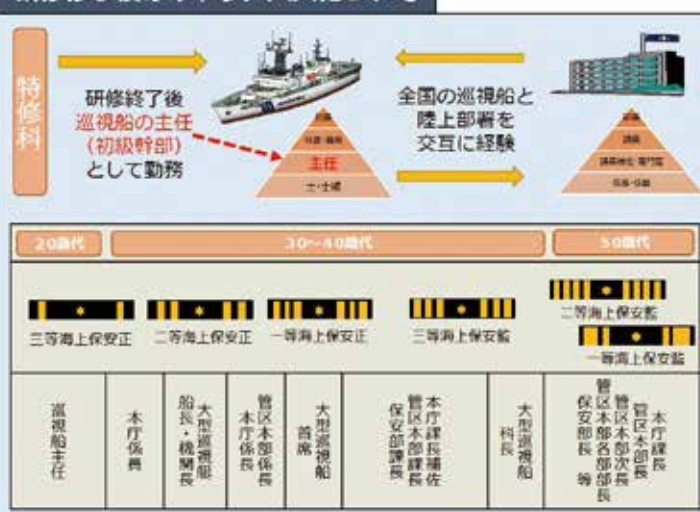


令和2年度から海上保安庁の幹部となる職員を養成するため、大学卒業者を対象とした「海上保安官採用試験」が新設されます。大学卒業者を直接幹部に登用に課程を設置することは、昭和23年海上保安庁が発足して、初めてとなります。

海上保安庁では、「海上保安体制強化に関する方針」に基づき増強される巡視船・航空機等の職員を計画的かつ安定的に確保・養成していく必要があり、特に、養成に時間を要する幹部海上保安官の確保が喫緊の課題となっています。

試験の内容や募集人数は令和2年2月上旬に海上保安庁HPなどで掲載予定です。

### 研修終了後のキャリアパスについて



# 5

## 海上保安庁音楽隊 第26回定期演奏会を開催



11月28日、東京芸術劇場コンサートホール（東京都豊島区）において、海上保安庁音楽隊第26回定期演奏会を開催し、約1,500人の方にご来場いただきました。

演奏会第Ⅰ部は、行進曲「自由の鐘」で幕を開け、海上保安庁音楽隊30周年記念曲「GUARDIANS OF THE WAVES」、「喜歌劇「こうもり」セレクション」

などを演奏しました。

第Ⅱ部は、「ロッキーのテーマ」の曲中で今年度から指揮を振る荒井弘太技術顧問によるトランペットソロが披露されたほか、映画公開で話題の「Selection from ALADDIN」などを演奏し、観客から盛大な拍手をいただきました。

Guard Global Summit  
ber 2019 Tokyo, Japan



世界の  
海上保安機関との  
連携・協力



世界75カ国から84の海上保安機関・関係機関が参加

# 第2回 世界海上保安機関 長官級会合開催

様々な形で世界中の人々の生活を支えている海  
その海の安全と秩序を維持し、環境を守ることは  
世界の海上保安機関が連携・協力して取り組むべき重要な課題  
そのための土台作りが今、着々と進められています

取材・文/中島 敦 (オンサイト)



11月20日、21日の2日間にわたり、「第2回世界海上保安機関長官級会合」が海上保安庁と日本財団の共催により都内で開催されました。2017年に開催された第1回世界海上保安機関長官級会合、2018年に開催された第1回世界海上保安機関実務者会合に続いての開催で、アジア、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、その他の地域の海上保安機関あるいは海上保安機能を有する機関の長が出席、議長は海上保安庁の岩並秀二前長官が務めました。

各国から集まった海上保安機関等の代表者はまず、海洋の安全と平和、そして美しい海洋環境が、国際社会の幸福と繁栄に不可欠なものであることを改めて確認。また、世界の人々が安心して海を利用し恩恵を享受するためには、海上における人命の安全の確保、遭難と災害対応の準備、海洋環境保全、そして国際海洋法のもとでの法の支配に基づく海洋秩序の確保が不可欠な基盤であることを再確認しました。

その上で、各国の海上保安機関等が互いに情報を共有するための手法や海上保安国際人材の育成について議論が行われ、海上保安庁は世界の海上保安機関と協力して「新たな教育機会」として短期の教育プログラムを試行する用意があることを表明しました。また先進的な取組みとして、地震津波災害への対応と教訓についてチリ海軍と海上保安庁が、海洋環境、気候等に対する南太平洋地域の取組みについてSPC(太平洋共同体)が、それぞれ発表を行いました。

■会議の結果概要

1	会合運営の ガイドライン	世界海上保安機関長官級会合の「会合運営ガイドライン」を策定。 また、2020年に第2回実務者会合を東京で開催すること、2021年に第3回長官級会合を開催することを決定。
2	情報共有手法	各国における先進的な成功事例や経験、人材育成のための有益な情報を共有する手法として、ウェブサイトを開発することで合意し、その開設に向けて具体的な検討を行う検討グループの設置を決定。
3	海上保安 国際人材育成	各国海上保安機関が直面する課題への効果的な対応のため、人材育成が重要かつ喫緊の課題であるとの認識を共有し、「地球規模の課題に対応するための人材育成」コンセプトを策定。日本からこのコンセプトに沿った「新たな教育機会」として、来年短期の教育プログラムを試行する用意があることを表明し、参加者から歓迎と積極的な協力の意思が表された。
4	先進的な 取り組みの発表	チリ海軍及び海上保安庁から地震津波災害への対応と教訓について、太平洋共同体(SPC:Secretariat of the Pacific Community)から海洋環境、気候、海の安全リスクに対する南太平洋地域の取組みについて、バリプロセスから海上における移民への対応について、それぞれ発表された。また海上保安庁から海洋ゴミ問題への取組みについて紹介した。



岩並前長官が議長を務め、世界75か国から84の海上保安機関・関係機関が参加した第2回世界海上保安機関長官級会合。2日間の日程を無事終了した。



会合終了後に催されたフェアウェルレセプションでは、来賓の安倍晋三首相が「世界各国の海上保安機関の協力が盤石なものとなり、その下で平和で豊かな海となる、そんな新しい時代を皆さんが切り拓いていただくことを期待いたします」と挨拶。また、和やかな笑顔で海上保安政策プログラム修了生との記念撮影も行いました。

今回の「第2回世界海上保安機関長官級会合」によって、各国の海上保安機関等の対話と連携・協力が強化されることとなりました。海上保安機関等が直面する課題を克服していくためには共通の行動理念の理解を深め、全世界の海上保安能力を向上させることが重要であり、そのために引き続きこの世界海上保安機関長官級会合を継続していく決意を新たにしました。

2020年には第2回世界海上保安機関実務者会合が東京で開催される予定です。



総務部 国際戦略官  
内海 雄介 UTSUMI Yusuke

平成10年4月運輸省入省後、コーネル大学留学、省内各局、鹿児島県、財務省主計局勤務を経て平成30年7月に国土交通省大臣官房広報課広報企画官となり、令和元年7月に現職就任。

# 2019年7月、多様化・拡大化する業務に対応すべく国際戦略官を新設 自由で開かれた インド太平洋をめざして

海上保安機関との連携強化

海上保安能力向上支援

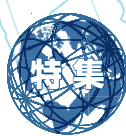
2019年7月、それまでの国際・危機管理官から分離する形で、国際戦略官と危機管理官という新部署が発足した。背景にあるのは国際業務と危機管理業務それぞれの拡大だ。法の支配に基づく海洋秩序の維持・強化をめざす我が国は、シーレーン沿岸国等の海上法執行機関の能力向上支援の強化や二国間および多国間の連携の強化に力を入れており、海上保安庁が担う国際業務は年々深化・多様化している。他方、近年、東京オリンピック・パラリンピック対応をはじめ我が国の危機管理を取り巻く情勢は重大化・複雑化しており、政府の危機管理体制の強化も重点施策となっている。そこで従来、1名の課長ポストで担っていたこれらの業務を国際戦略官と危機管理官に分け、それぞれに責任者を置き体制の拡充を図ることになった。

2016年、安倍首相はケニアで開催されたアフリカ開発会議の基調演説において、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）は、

- 1 基本的原則の定着とそれに基づく秩序形成（法の支配、航行の自由、自由貿易の普及・定着）
- 2 平和と安定の確保（海上法執行能力の向上、人道支援、災害救援、海賊対策などでの協力）
- 3 経済的繁栄の追求（連結性、EPAや投資協定を含む経済連携強化）

「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）は、Free and Open Indo-Pacific」の考え方を提唱した。成長著しいアジアと潜在力溢れるアフリカという2つの大陸と、自由で開かれた太平洋とインド洋の交わりにより生まれるダイナミズムが国際社会の安定と繁栄の鍵を握ると唱えるこのFOIPは、

世界の  
海上保安機関との  
連携・協力



第2回開催を迎えた世界海上保安機関長官級会合では事務局トップとして議長を補佐した



この理念に基づいて二国間および多  
 国の連携、そして沿岸国の海上保安能力  
 向上支援に取り組むことが国際戦略官の  
 任務となる。

新設されてすぐに国際戦略官に就任し  
 た内海雄介は二国間の連携については、  
 地政学上重要な関係国と、事案対応時に  
 迅速かつ的確な連携・協力を行うために覚  
 書や協定を締結して二国間の枠組みを構  
 築しており、対象国も増えてきています。一  
 方、多国間の連携・協力については、例え  
 ばグローバル化あるいはポータレス化する

傾向にある国際犯罪への対応や、大規模化  
 する事故や災害への対応、環境汚染への対  
 応など、各国で連携していくことが重要と  
 いう認識が広がってきています。具体的に  
 は2000年から開催されている北太平  
 洋海上保安フォーラム(NPCGF)  
 や2004年から開催されているアジア  
 海上保安機関長官級会合(HACGAM)  
 があります。これらは北太平洋やアジア  
 という地域を限定した多国間の取組みで  
 すが、2017年には初の世界規模の取組  
 みとなる世界海上保安機関長官級会合



フィリピン沿岸警備隊に対する高速  
 小型艇等を用いた訓練。白い船は日  
 本から供与（有償資金協力）された  
 巡視船。MCTでは他にも油防除で  
 の資機材の取り扱いや、立入検査の  
 手法など、海上保安業務に必要な技  
 術や知識を伝えている。



(CGCS)が開催されました。」  
 特筆すべきはいずれの多国間の枠組み  
 も日本のイニシアチブのもとでスタート  
 していることだ。

このCGCS、2018年には実務者レ  
 ベルでの会合が行われ、今年11月20、21日  
 に第2回目となる世界海上保安機関長官  
 級会合が開催されたばかりだ。

「シーレーン沿岸国等の海上保安機関等  
 への海上保安能力向上支援には、先方に出  
 向いて支援を行う現場型と、日本に来ても  
 らう受け入れ型があり、現場型支援体制を  
 強化すべく、MCT(II海上保安庁モバイル  
 コーポレーション)チームが立ち上げられま  
 した。また、受け入れ型支援としては1年  
 間の半分を海上保安大学校で、残りの半年  
 を政策研究大学院大学で学ぶ海上保安政  
 策プログラムを実施しています」

「やるべきことが多岐に渡る中で、海上  
 保安庁の体制にも限りがありますが、ま  
 ずは現場型支援を担うMCTの体制を拡  
 充していきたいと考えています。先日MCT  
 がパオロに行って支援したときは、その  
 活動をパオロ大統領がツイッターで紹介

してくれました。また外務省等を通じて  
 海外から海上保安庁に能力向上支援の要  
 請をいただくことも増えてきています。」

第2回世界海上保安機関長官級会合で  
 も、複数の国から直接感謝の言葉があり  
 ました。海上保安庁への期待や、ニーズの  
 高さを肌で感じています」

海上保安、いわゆるコーストガードの  
 歴史はアメリカでも百数十年。日本でも  
 70年しかない。一方で東南アジアに目を移  
 すと、今世紀に入ってから設立されたばか  
 りの機関も少なくなく、これらの国から  
 は設立間もない海上保安機関の育成支援  
 を求める声が多いという。

「これらはまさに海上保安庁が担うべ  
 き、そして海上保安庁にしかできない仕事  
 です。価値あることに直結している業務  
 であり、やりがいと責任を感じています」  
 また海上保安庁の存在感を示す国際連  
 携・協力として、巡視船や航空機の派遣も  
 実施。練習船「こじま」が遠洋航海で寄港  
 することも、相手国でのプレゼンス向上  
 に繋がっている。

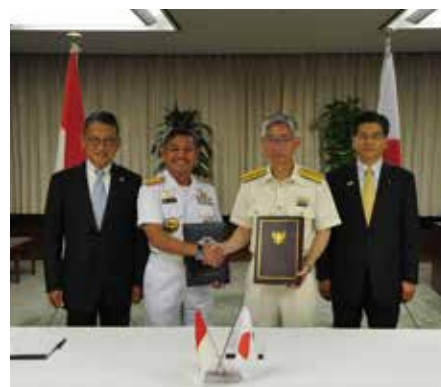
「二国間・多国間での連携・協力や能力  
 向上支援を通じて、POPを広げていく。  
 国際という言葉からは連想しづらい面も  
 あるかもしれませんが、海上保安庁が行っ  
 ている様々な国際業務は「平和で豊かな  
 海」を守る取組みそのものだと思っていま  
 す。こつた動きについて国民の皆さんに  
 しっかりと伝えていきたいですし、ぜひ注  
 目していただきたいと考えています」



日米でも海上保安機関長官級会合を開催



2019年、都内にてインド沿岸警備隊と長官級会合  
 を開催



2019年、都内にてインドネシア海上保安機構との  
 協力文書交換



# 海の安全を「共に築く」 世界で活躍するMCT

増大する諸外国からの人材育成支援の声に応えるべく2017年10月に発足した  
MCT（＝海上保安庁モバイルコーポレーションチーム）  
海外で訓練や研修を行っている

2017年、第1回のMCT派遣となったフィリピン沿岸警備隊に対するゴムボート操船訓練。

## 技術支援の内容

1	海上法執行 (船舶立入検査、高速小型艇操船)
2	捜索救助 (救助作業)
3	油防除 (油防除資機材取り扱い)
4	機関整備 (高速小型艇の機関整備)
5	海上保安業務に関する講義
6	技術支援に関する協議

海上保安庁は過去50年以上にわたって、アジア沿岸諸国への技術支援を行ってきた。海難救助や油防除、海上法執行、海上交通の安全確保など、昨年創設70周年を迎えた海上保安庁がこれまで培ってきた技術やノウハウを伝えることで、沿岸諸国の海上保安能力向上に貢献している。

従来、こういった支援は現場の海上保安官が行ってきたが、激甚災害への対応や尖閣諸島の国有化に伴う警備の拡大など、海上保安庁に対する国民からの期待が非常に大きくなってきていること、さらに業務そのものも多様化が進み、海上保安庁全体の業務量が増加していることから、現場の海上保安官を派遣することが難しくなってきたという背景があり、国際協力に関する、特に人材育成支援に特化した専任チームとして2017年10月にMCTが発足した。

「発足からの2年間で11カ国、合計34回

の支援を行ってきました。関わった人員はMCTだけでも60名。現場の海上保安官も合わせれば108名になります」と説明するのはMCTを率いる海上保安国際協力推進官の樋口則一だ。派遣の期間は最長で3日の時もあれば、最長で1か月に及んだこともあるという。

当初7名でスタートし、現在10名体制となったMCTは樋口を筆頭に、上席派遣協力官、主任派遣協力官、派遣協力官による3名1組のチーム3つで構成されている。樋口自身も特殊救難隊出身であるが、他にも機動防除隊などの専門部隊の人間を複数名擁しているため、訓練研修の計画や研修資料の作成にはその能力が発揮されるという。一方で、「支援する内容は海



総務部海上保安国際協力推進官  
樋口 則一 HIGUCHI Norikazu  
平成7年入庁。巡視船潜水士、特殊救難隊長、ソマリア派遣隊長、巡視船さつま機関長などを歴任し平成31年4月から現職



スリランカで実施した油防除機材取り扱いについての研修風景



ベトナムでは船舶立入検査訓練を実施

上保安官であれば誰もが身に付けているべき知識と技術であることが多いため、実際の派遣は全員で分担しています。また、MCTの能力を超える支援が必要とされるときは、現場から専門知識や能力を持った職員の力を借りることもあります。」

6月にベトナムで支援を行った際には「立入検査の手法」を指導したが、この時はベトナムへの今年度初めての派遣だったこと、新たにMCTに加わった隊員に支援の現場を教えるという意味もあり、総勢5名で1週間のスケジュールとなった。

指導言語は「基本的には英語だがケースバイケース」とのこと。ベトナムの支援ではベトナムの訓練対象者が英語があまり得意ではないということで、ベトナム語の通訳を介して訓練を行ったという。とはいえ同じ海上保安に携わる者同士、少々語学が苦手でも熱意があれば熱心に耳を傾けてくれるし、逆に「こういう単語や言い回しを使ったほうが分かりやすいです

よ」などと意見が返ってくることもあるという。樋口は「双方向的に教えてあげる」のではなく、「一緒に築いていく」という意識が必要ですし、そこに大変やりがいを感じています」と語る。

また国によって特徴や文化の違いがあり、長年同じ訓練研修を繰り返してもなかなか吸収してくれない国もあれば、初めてなのに予想以上に吸収してくれる国もあるという。

「各機関が抱えている課題というのは、我々海上保安庁が数十年前に直面していた壁と一緒だったりします。だからこそ、その壁を乗り越えてきた我々が各国に行つて支援するのは非常に意義あることだと思います。また海上保安庁自体、職員の若返りが進む中で自分達の人材育成もままならないのに他所の国に？」という意見があるのも事実ですが、今まさに海上保安庁が取り組むべき課題と、諸外国が今必要としている課題が、実は重なっているという面も少なからずありますし、諸外国

の海上保安機関の能力向上が日本国民の生命や財産を守っていくことにも繋がります。70年の歴史と経験があり、アメリカと並び世界の海上保安機関の先駆的存在である海上保安庁が行うべき業務だと考えています。また、若い海上保安官にもMCTがどのような目的で、どういった業務をしているのかをどんどん知ってもらいたいと考えていますが、MCTを希望してくれる若者には、まず今の現場でしか

りと海上保安官としての基礎を身に付けておいてくださいということを庁内職員向けのポータルサイトなどで発信しています」

MCTの活動状況は海上保安庁ツイッター(@JCG\_koho)上に英語でも投稿しており、MCT派遣先の国の人も閲覧できるといふ。これまでの形に捕らわれない、開かれた、新しい支援と交流が広がることに期待したい。

## 『私たちが伝える技術が、日本人の命を救うことも』

総務部 国際戦略官付 派遣協力官

吉岡 優 YOSHIOKA Yu



入庁して8年目ですが、MCTに来る前は本庁警備救難部で国際救難に携わっていました。海外とのやりとりも多く、そのひとつとして東南アジアの方々に対して救難技術のレクチャーを実施していましたが、実際にどんなニーズがあるのか？ 当庁全体でどのような支援ができるのかを意識するようになり、MCT入りを希望しました。

これまでベトナムとパラオに派遣されましたが、ベトナムでは立入検査に関するセミナーと実技を、パラオではセミナーの補助を行いました。MCTはまだ立ち上がったばかりの組織なので、資器材を揃えるなど手探りしながら自分達の体制を整えているところです。相手が日本人であれば電話ですぐに話が通じますし、調整にもそれほど時間は掛かりませんが、海外となるとそのような回答が得られないこともあり準備にも時間が掛かります。また、自分達が抱

えている課題そのものを把握できていないケースもあります。一方で、パラオでは数年前にも一度、救難に関する支援を実施していますが、その時に教えたことを彼らなりに復習してくれていて、身体が動いているのを見た時には嬉しく思いました。

また、個人的な話ですが、パラオには入庁前にスキューバダイビングで遊びに行ったことがあります。ダイビングで事故が起きたときに今、自分が教える立場でパラオに行き彼らがそれを学んでいる。もしも日本人ダイバーがパラオで事故に遭ったときには、それが役立つんだという実感があります。

MCTの活動は外国に対する支援ではありますが、同時に日本人を守ることにも繋がっているんです。世界の海がより安全になることを思うと、大きな仕事に携わっているんだと身の引き締まる思いです。

# 上保安機関とその船艇



©JCGF



バングラデシュ沿岸警備隊  
Bangladesh Coast Guard



カナダ沿岸警備隊  
Canadian Coast Guard



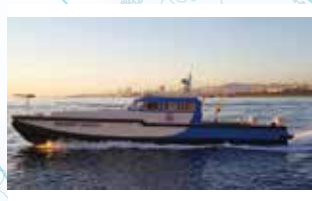
中国海警局  
China Coast Guard



コスタリカ沿岸警備隊  
Costa Rica National Coast Guard Service



ドイツ連邦警察  
Federal Police Department for Maritime Security



ガーナ海事局  
Ghana Maritime Authority



ギリシャ沿岸警備隊\*  
Hellenic Coast Guard



アイスランド沿岸警備隊  
Icelandic Coast Guard



モルディブ国防軍  
Maldives National Defence Force



マーシャル諸島警察局  
Marshall Islands Police Department



モーリシャス国家沿岸警備隊  
National Coast Guard



メキシコ海軍  
Mexican Navy



ポーランド国境警備隊  
Polish Border Guard



韓国海洋警察庁\*  
Korea Coast Guard



ルーマニア国境警察  
Romanian Border Police- Coast Guard



ロシア連邦保安庁国境警備局  
Border Service of the Federal Security Service  
of the Russian Federation



シンガポール警察沿岸警備隊  
Singapore Police Coast Guard



スペイン治安警察  
Spanish Guardia Civil



海上保安庁  
Japan Coast Guard



アメリカ沿岸警備隊  
United States Coast Guard



ベトナム海上警察  
Vietnam Coast Guard



船体両舷に表示されているS字マークは、海上保安庁の業務であるSecurity、Search and Rescue、Safety、Surveyと、モットーであるSpeed、Smart、Smile、Serviceの、それぞれ頭文字である“S”を図案化したもので、巡視船艇や航空機に紺色で描いています。



アルジェリア海軍  
Algerian Naval Forces Coast-Guard  
National Service



アルゼンチン沿岸警備隊\*  
Prefectura Naval Argentina  
(Argentine Coast Guard)



オーストラリア国境警備隊  
Australian Border Force



アゼルバイジャン国家国境庁  
State Border Service of the Republic Azerbaijan



ジブチ沿岸警備隊  
Djibouti Coast Guard



エストニア警察国境警備隊  
Estonian Police and Border Guard Board



フランス海洋事務総局  
Secretariat General for the sea



ジョージア国境警察  
Georgian Coast Guard



インド沿岸警備隊  
Indian Coast Guard



インドネシア沿岸警備隊\*  
Bakamla / Indonesia Coast Guard



イタリア沿岸警備隊\*  
Italian Coast Guard



マレーシア海上法令執行庁  
Malaysian Maritime Enforcement Agency



ノルウェー沿岸警備隊  
Norwegian Coast Guard



パキスタン海上警備庁  
Pakistani Maritime Security Agency



パラオ海上保安・魚類野生動物保護局  
Bureau of Maritime Security and Fish &  
Wildlife Protection



フィリピン沿岸警備隊  
Philippine Coast Guard



セントビンセント及びグレナディーン諸島沿岸警備局  
Saint Vincent and the Grenadines Coast Guard



サモア警察  
Samoa Police Service



セネガル海上保安・救助・環境調整担当高等庁  
High Authority for the Coordination of Maritime Safety of Maritime  
Security and Protection of the Marine Environment (HASSMAR)



セーシェル人民国防軍\*  
Seychelles Coast Guard



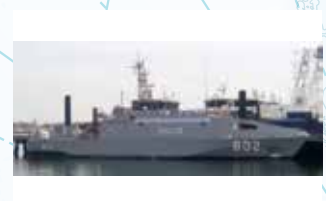
スリランカ沿岸警備隊\*  
Sri Lanka Coast Guard



トリニダード・トバゴ沿岸警備局\*  
Trinidad and Tobago Coast Guard



トルコ沿岸警備隊\*  
Turkish Coast Guard



ツバル警察  
Tuvalu Police Service

\*ホームページなどに使用されている写真を掲載

# NEWS FLASH



9月21日 本部  
 七管区 関門海峡ミュージアム  
 海保常設展示場がリニューアル

九管区 佐渡  
 たらい舟バージョン



©JCGF

## 9月



9月29日 学校  
 海上保安学校  
 卒業式を挙行



9月12日 那覇基地  
 十一管区 新型ジェット機  
 ファルコン2000就役式

十一管区 沖縄  
 エイサーうみまる、琉装うーみんバージョン



©JCGF

## 11月



11月3日 海上保安大学校  
 第65回西日本新人カッター競技大会で  
 男子クルー優勝



9月20日 中部基地  
 四管区 巡視艇いせゆき潜水士  
 日本マスターズ水泳選手権大会優勝



10月18日 大阪湾センター  
ママ海上保安官特製！  
うみまるキャラ弁  
五管区



10月10日 本部  
制圧競技大会  
開催  
二管区

# 10月

十管区 熊本  
加藤清正うみまる、  
山鹿灯籠まつりうみまんバージョン



©JCGF



10月26日 柳井保安署  
牛乳パック型  
巡視艇が就役！  
六管区



10月22日 奄美保安部  
祝 灯台記念日！  
笠利埼灯台を一般公開  
十管区



10月7日 本部  
路面電車で  
出前教室  
一管区

11月10日  
本庁  
音楽隊  
参加  
祝賀御列の儀に



11月2日  
三管区  
横須賀保安部  
警察・消防・自衛隊・  
海保の女性職員が大集合！



暗い場所では  
光ります！



11月20日  
八管区  
舞鶴保安部  
バルーンうみまる・  
うみまん誕生



11月19日  
九管区  
本部  
警備救難競技会開催！  
(制圧、射撃、救助の部)

# 第20回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール 受賞作品決定

海上保安庁は、海洋環境保全思想の普及、海上保安業務への理解の促進を目的として、公益財団法人 海上保安協会との共催で「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」を開催しています。今年で20回目を迎えた本コンクールには、全国の小中学生から31,145点の応募があり、国土交通大臣賞(特別賞)をはじめとした受賞作品が決定しました。

国土交通  
大臣賞  
(特別賞)

小学生低学年の部  
あおき ゆうま  
**青木 勇麻**さん  
徳島県徳島市  
国府小学校 1年生



海上保安庁  
長官賞

小学生低学年の部  
にした ゆい  
**新田 結以**さん  
宮城県美里町立  
不動堂小学校 2年生



小学生高学年の部  
かはら しゅんき  
**加原 駿輝**さん  
沖縄県石垣市立  
平真小学校 5年生



中学生の部  
たけだ かずみ  
**武田 一美**さん  
鹿児島県南さつま市立  
万世中学校 3年生



海上保安協会  
会長賞

小学生低学年の部  
まつしま ゆめ  
**松嶋 優芽**さん  
長崎県壱岐市立  
箱崎小学校 2年生



うみがめ  
マリン賞  
(特別賞)

中学生の部  
ひらのみのり  
**平野 深愛**さん  
大分県別府市立  
青山中学校 1年生



小学生高学年の部  
とよた こうへい  
**豊田 暁平**さん  
徳島県小松島市  
南小松島小学校 4年生



中学生の部  
すずき さえき  
**鈴木 冴基**さん  
石川県金沢市立  
泉中学校 2年生

